



PREX NOW

No. **192**
March
2010

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

- page 1 ●ニュース&レポート 1
西安市の水環境人材育成への貢献
- page 2 ●ニュース&レポート 2
バルカン半島各国の行政官が大阪へ
- page 3 ●ニュース&レポート 3
中東の行政官が
「持続可能な観光開発」研修に参加
- page 4 ●ニュース&レポート 4
自社に合ったリーダーの姿を討議
●ニュース&レポート 5
知財の保護といえども色々
- page 5 ●協力企業特集
（株）喜八洲総本舗 / （株）西遊旅行
（株）大阪繊維リソースセンター / （株）奥谷金網製作所
- page 6 ●PREXだより
事務局ニュース、
3月実施の主な研修と会議予定、研修実績



途上国と関西にとって、
なくてはならない
存在になることをめざす。



ニュース&レポート 1

News & Report

西安市の水環境人材育成への貢献

受入研修 環境 京都市-西安市水環境整備事業第4期訪日研修

2009年11月17日より、12月2日まで、「西安市水環境整備事業第4期訪日研修」を実施した。当研修は、京都市と西安市が友好都市であることより、西安市が円借款を利用して整備した上下水施設の運営管理のための人材育成に協力するもので、4回の訪日研修が計画され、今回はその最終回であった。西安からは多くの幹部クラスの人材や同プロジェクトに最初から関わった担当者も来日し、活気に溢れるセミナーとなった。

西安市水環境整備事業は、4期で約70名の西安市の行政幹部、実務者を対象として日本で研修を行い、京都市上下水道局、国際化推進室、日水コン、PREXからなる調査団を3回にわたり西安へ派遣した。

当初の計画では、第1期、2期は幹部クラスの人材、3期、4期は実務クラスの人材を中心とした構成とする予定であったが、今回実施した第4期は最終回であり、これまでで最も幹部クラスの割合が多かった。研修事業は、京都市上下水道局が中心となり実施したが、講義、見学、交流ともに充実した内容であり、研修参加者の参考になったようである。琵琶湖疏水記念館では、明治時代に当時の北垣知事や工事関係者などが、公共の利益のために大きな困難を乗り越えて疏水事業を成し遂げたことに多くの研修参加者が感銘を受けたようで、「日本人の仕事に対する真剣さや公共の利益のために払う自己犠牲的精神に敬意を表する」と述べていた。また、都市計画や都市景観、環境についても京都市の取り組みを紹介いただいたが、研修参加者は一様に「京都の歴史文化を大切にする政策や、京都議定書発祥の地である責務を果たすための厳しい環境基準などが参考になった」ということであった。



京都の鳥羽水環境保全センターを訪問し、下水処理の技術を目の当たりにした。

同研修を通じて、西安に多くの「京都ファン」をつくることができ、京都市と西安市の友好交流に同事業は大きなプラスの影響を与えたのではないかと考えている。京都市上下水道局は、「京（みやこ）の水ビジョン」の中で、国際貢献の推進を掲げていることもあり、さらに深い協力を行いたいと願っていたところ、来年度よりJICA草の根技術協力事業の一環として、西安の下水道の合流改善についての協力事業を2年間実施できることとなった。下水道には合流式と分流式という2つのタイプがあり、雨水と汚水をあわせて流すものを合流式、分けて流すものを分流式という。西安では分流式が多いが一部合流式のものがあり、大雨が降ると水が溢れてしまうなどの問題が発生するという。合流式下水道の改善については、京都市上下水道局は様々な経験を有しており、来年度の現地調査を通じてより具体的な協力ができることになる。JICAの制度により協力事業が続けられることを大変嬉しく思う。

■ 事業を通じ西安市に「京都ファン」を輩出

同研修を通じて、西安に多くの「京都ファン」をつくることができ、京都市と西安市の友好交流に同事業は大きなプラスの影響を与えたのではないかと考えている。京都市上下水道局は、「京（みやこ）の水ビジョン」の中で、国際貢献の推進を掲げていることもあり、さらに深い協力を行いたいと願っていたところ、来年度よりJICA草の根技術協力事業の一環として、西安の下水道の合流改善についての協力事業を2年間実施できることとなった。下水道には合流式と分流式という2つのタイプがあり、雨水と汚水をあわせて流すものを合流式、分けて流すものを分流式という。西安では分流式が多いが一部合流式のものがあり、大雨が降ると水が溢れてしまうなどの問題が発生するという。合流式下水道の改善については、京都市上下水道局は様々な経験を有しており、来年度の現地調査を通じてより具体的な協力ができることになる。JICAの制度により協力事業が続けられることを大変嬉しく思う。

— 国際交流部 担当課長 酒井 明子

京都市-西安市水環境整備事業第4期訪日研修

- ◎実施期間 2009.11.17~12.2
- ◎研修参加者 西安市の行政幹部、実務者 23名
- ◎内 容 京都市の上下水道技術を学ぶ
- ◎委託元機関 西安市(中国)
- ◎関係機関 JICA本部、京都市

お世話になった方々、企業・団体他 (敬称略、訪問順)

京都市、京都大学 津野教授、島津製作所、東京都水道局、有明水再生センター、日水コン



バルカン半島各国の行政官が大阪へ

受入研修 中小企業振興 南・東欧中小企業振興セミナー

アルバニア、ウクライナ、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モルドバの公務員を対象にした南・東欧中小企業振興セミナーを実施した。それぞれの国で、企業振興を担当する職員を対象に、日本の企業振興に関する政策を紹介している。雇用創出、経済振興のために、企業振興策の計画を策定、またその計画を実行している若手公務員が訪問し、関西・東京で企業、関係の公的機関を訪問し、日本の取り組みについて学んだ。



大阪の経営支援プラザで、日本の取り組みについて説明を聞きます。同業の方々の説明に興味津々の研修員。

■ 南・東欧地域の研修を担当して10年

ヨーロッパの東、ロシアの西、大陸の中で見ると少し南寄りの地域。「南・東欧地域とはどこか」と聞かれると、どう説明していいかいつも少し困る。最近では、クロアチアなどが旅行雑誌に特集を組まれるなど、近隣の国々にも視線が集まっている。かつてこの地域に関わられていた方からすれば、ユーゴスラビアというほうがなじみがあるかもしれない。PREXとこの地域のかかわりは意外に古く、'99年にボスニア・ヘルツェゴビナの「中小企業振興セミナー」を受託したことに始まり、中・東欧地域の「中小企業振興」、それを衣替えし、南・東欧地域の「中小企業振興セミナー」と、気がついてみれば10年もこの地域の中小企業振興分野にかかわった。

当初は、色々な歴史の複雑さ、国同士の関係の難しさなど、大陸にある国々ならではの難しさを感じる場面もあった。毎年来日される人の雰囲気も少しずつ変わり、その年々で抱える課題にも違いが見られた。



ポテンシャルのある産品がたくさんあるんですよ！それを掘り出してどうプロモートするか！熱のこもった説明についつい身も乗り出してしまう。



今年の参加者は20歳代から30歳代という中堅世代（まだ少数派だそうだが）。海外での留学経験や、企業研修で外国にいかれた事がある人たちもいて、明るい元気な雰囲気を感じた。

■ 研修員の活躍に期待

面白いと思うのが、英語以外にお互いに通じあえる言語があること。違う言葉ではあるが、聞けばわかるとか、母語と非常に近いので、お互いに意思疎通はできる、という言葉があるそうで、英語ではない言

葉でお互いに話をしあっている場面も見かけた（研修自体は英語で実施）。英語、ロシア語、セルビア語、その他色々な複数の言葉を使いわけ、自由におしゃべりする研修員。EU加盟を目指し、セルビアは12月にメンバーとなった。交流するのは人と人。「難しい問題山積」と研修員は言うが、今回の研修員のように柔軟に、そして、前向きに、今までこの研修に参加したすべての研修員が、これからの経済発展に貢献されることを心より願ってやまない。

— 国際交流部 主任 関野 史湖

TOPIC PREXと東欧のかかわり

設立初年度、ポーランドから25名を迎え、市場経済導入をテーマとした本邦研修を実施したのが、PREXと東欧とのかかわりの嚆矢である。

それ以来、時代の推移と共に主題も対象国も変化したが、受入側のPREXにとっても来訪者から学ぶ点が多々あった。

特定のテーマに沿ってセミナーは企画され実施されるが、その根底に流されるのは相互理解の精神であり、その具現化こそが国際社会に生きる一員としての在り方であろう。その意味で毎年に変わり行く訪日者の言動や佇まいから得るものが多かった。

各々から母国へ帰国後、彼等・彼女等が本邦研修で得たものを日常業務の中で活かしているであろうことを念じている。

— PREXシニアコースリーダー 西村 愛

南・東欧地域中小企業振興セミナー

- ◎実施期間 2009.11.11～12.11
- ◎研修参加者 中小企業振興に携わる行政官 8名(5カ国)
- ◎内 容 中小企業振興政策、振興のための各種取り組み(金融支援、技術支援、人材育成、創業等々)
- ◎委託元機関 JICA大阪国際センター

お世話になった方々、企業・団体他 (敬称略、訪問順)

龍谷大学 松岡教授、京都大学 経済研究所 溝端教授、プール学院大学 平井准教授、近畿経済産業局、コダマ、大阪産業大学 大津教授、中小企業基盤整備機構、同近畿支部・経営支援プラザUMEDA、中小企業大学校関西校、日本政策金融公庫 国民生活事業本部、根本特殊化学、トヨタL&Fカスタマーズセンター、エアコンサービス、がんこフードサービス、関浦中小企業診断士、津川製作所、クリエイション・コア東大阪、大阪東信用金庫、セキスイハイム、サントリー京都ビール工場、神戸大学大学院 久保教授、徳野会計事務所 徳野税理士



中東の行政官が「持続可能な観光開発」研修に参加

受入研修 観光 中東地域観光開発研修

豊富な観光資源を持つ中東では、地域経済の活性化に向けた観光開発が大きな課題となっている。本研修では、関西を中心とした、日本の地域観光振興の事例を学ぶため、エジプト・パレスチナ・シリア・イエメンの、観光及び地域振興に関わる行政官5名が来日した。



美郷観光の名所
高開の石積み。



石積みを補修・管理している高開氏を囲んで。氏を慕って訪れる観光客も多い。

農家民宿での郷土料理体験中。食した椎茸の原木の説明を受ける。



■ 住民参加型の観光開発を目指して

参加地域では、ピラミッドに代表される古代遺跡や、聖地エルサレムへの巡礼路など、宗教的な遺跡を見るために、ヨーロッパを中心とした外国人観光客が頻りに訪れている。また、近年、スキューバダイビングや砂漠のオアシスツアーなど、自然を活用した観光も盛んである。ただ、それに伴う観光資源の活用・保護の在り方や、一部に利益が集中することなく、地域経済の活性化に観光産業をどうつなげるかが大きな課題となっており、その解決策となり得る日本の事例を学ぶことが本研修のメインテーマの一つであった。

■ 徳島県美郷の観光とは

問題の解決策の一つとして研修で大きく取り上げたのが、住民参加型の観光開発の紹介で、その事例を学ぶために訪問したのが徳島県吉野川市美郷である。山間の過疎高齢化問題に直面しているこの地域では、住民が主体となって、自分たちの営みの中から観光資源を発見し、体験メニューとして提供するなど、積極的な住民参加型の観光開発を展開している。例えば、農家民宿や、地元の食材を利用したレストラン、収穫体験、伝統的なほたるかご作りなどである。観光客が接するのは、観光用に特別に創られたものではなく、もともとそこに有った、地元の人々に普段の生活

の知恵として根付いているものである。そのような体験を観光資源として提供できる点が住民主体の観光開発の魅力であり、結果、地域経済の活性化や生きがいづくりにつながっている。

■ 研修参加者が感じたこと

ホテルの建設など、インフラ整備に重点を置いた観光開発が主流の研修参加者にとって、美郷の事例は今までに無い観光の在り方として、大きなインパクトを与えた。皆家族ぐるみのホスピタリティ溢れる対応にまず心打たれていたが、農家民宿での郷土料理体験や、自分たちもすぐにでも実践できる工夫点など、帰国後の活動の参考となる事例を多数発見できたようであ

る。そして何より、観光に携わる人々の生き生きとした姿、明るい笑顔に、大きな可能性を見出していた。

— 国際交流部 コースプランナー 折井 耶澄

中東地域観光開発研修

- ◎実施期間 2009.11.2~20
- ◎研修参加者 観光及び地域振興に関わる行政官計5名
- ◎内 容 日本の観光振興の事例を学ぶ
- ◎委託元機関 JICA大阪国際センター

お世話になった方々、企業・団体他

(敬称略、訪問順)

阪南大学 前田弘教授、ツアーランド、美郷商工会、国際観光振興機構(JNTO)、観光庁、日本旅行業協会(JATA)、西遊旅行、平成遷都1300年記念事業協会、奈良国立博物館、道の駅「しらとりの郷・羽曳野」、ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪、福寿園宇治工房

TOPIC

すごい! 日本のキャラクターパワー!!!

研修の序盤では、映像の観光化の事例を学ぶため、京都の東映太秦映画村を訪問した。ここで驚かされたのが、日本のコンテンツパワーである。映画村内スーパーヒーローランドの、歴代仮面ライダーやレンジャーものの主人公の像が並べられている広場を通りかかった時である、「私これ知っている」と呟く研修参加者がいた。他の参加者にも聞いてみたところ、国毎に番組名に微妙な違いがあるが、日本のスーパーヒーロー達が中東でも浸透していることが判明し、より身近な事例として、研修員自身に研修テーマと訪問の目的を考えてもらうことが出来た。日本のアニメが世界中を席巻しているのは、非常に有名な話だが、まさか実写のヒーローまでが遠い中東の地において浸透していたというのは、映画村の関係者の方にとっても予想外であった。



映画村のスーパーヒーローランド内での記念写真。この日は京都の旅行会社ツアーランドの社長に終日同行いただき、嵐山なども案内いただいた。



自社に合ったリーダーの姿を討議

海外研修 経営管理 ベトナム海外研修

AOTSの制度を活用し、関西経済連合会の支援で、現地カウンターパートのベトナム商工会議所と研修を行った。欧米型と日本型のリーダーシップ論及び日本の事例と実践方法について、講師のイノヴェティカ代表の三ツ松新氏の2日間にわたる研修だ。

「マネージメントとリーダーシップは違う」という一言から講義は始まった。自社が置かれている現状を分析し、優位点を伸ばしていくにはどうしたらいいのか、そのためには従業員をどのように引っ張っていかばいいのか。人間の行動や習性から、モチベーションアップについて理論的に説明された。そして、研修生の関心は日本企業の事例に集まる。講師が紹介したリーダーは松下幸之助だった。家内工業から世界に知られる企業に発展させた松下幸之助がとった行動はリーダーとしての見本である。

グループ討議では、研修生の企業を1社取り上げて経営分析を行った。木材でハンディクラフトを作っている企業の事例が紹介されると、にわかに議論が活発になった。「これからの産業ではないのではないか。付加価値はどうつけるのか。その戦略はどうなっているのか。どう企業を発展させていくのか。」業種も違えば、立場も違う。しかし、どのように経営戦略を考えるのかはどれもかも真剣だ。自社を分析する手法だけでなく、業界の将来性をとらえる方法の必要性が望まれた。

これからのベトナム企業にとって、組織を管理することも必要だが、組織を引っ張っていくリーダーの育成が急がれる。自社に合ったリーダーの姿は何か、研修生の討議は続く。

— 国際交流部 担当部長 加藤 寿郎



研修参加者と前列左から筆者、講師の三ツ松代表、AOTS所長。

ベトナム海外研修

- ◎実施期間 2009.12.2(水)～3(木)
- ◎研修参加者 ベトナムの企業経営幹部、管理職等 33名
- ◎内 容 変革型リーダーの育成
- ◎関係機関 AOTS(海外技術者研修協会)、関西経済連合会

お世話になった方々、企業・団体他

(敬称略、訪問順)

イノヴェティカ代表 三ツ松新氏、ベトナム商工会議所、Sumitomo Electric Interconnect Products (Vietnam), Ltd.



知財の保護といえども色々

海外研修 経営管理 中国海外研修(知的財産権管理)

知的財産の保護だ！商標の侵害とは何か説明を！AOTSの制度を活用し、中国・陝西省咸陽市、貴州省遵義市で「経営に役立つ知的財産権保護と活用」のセミナーを開催した。ちょうど、咸陽市のお隣西安市では、第9回中日韓特許庁長官会合が開催されたばかり。偶然とはいえ、余りにタイムリーなセミナーであった。中国の企業人の「知財」に関する意識やいかに?!これが一番知りたいところではあるが、印象

としては「知財保護」に関する意識は間違いなく高まっているし、何かの措置をとらなければ!という意識がしっかりとあることは確か。ただ、余りに広大な中国のこと、「自社ブランドを守るにはどうしたら」と考える人から「知的財産とは?」というレベルの人まで様々。コピー商品についての話がよく出る中国。そのような側面もあるのかもしれないが、そうではない意識もしっかりあるのも中国。一般論的になってしまうが、「知財

保護」について注意を払う人たちが増えていけば、もっとも中国ブランドに対するイメージも変わるのではないか、と思わせたセミナーであった。

— 国際交流部 主任 関野 史湖



これだけ聴講生がいると「迫力満点」です。(遵義市)



街もどんどん変わっていきます(昔と比べて街並み一変です)。(遵義市)

中国海外研修(知的財産権管理)

- ◎実施期間 陝西省・咸陽市：2009.12.24～25
貴州省・遵義市：2009.12.28～29
- ◎研修参加者 本テーマに関心の強い経営者、幹部、知的財産権担当職員等 160名
- ◎内 容 知的財産について
 - ・競争力を高めるための知的財産活用方法1(日本を事例として)
 - ・競争力を高めるための知的財産活用方法2(中国を事例として)
 - ・中国の知的財産権保護サービス
- ◎関係機関 AOTS(海外技術者研修協会)

お世話になった方々、企業・団体他

(敬称略、訪問順)

日本貿易振興機構 北京センター知的財産権部、咸陽市 生産力促進センター、貴州省遵義市 生産力促進センター

(株)喜八洲総本舗

作り置きの出来ない和菓子製造と人材育成

大阪府淀川区 <http://www.kiyasu.jp/>

アジア・大洋州地域「中小企業経営管理」で訪問

阪急十三駅西口すぐそばに本社、工場を構え、「最高の材料と、お手頃な価格」をモットーに、名物の酒饅頭、人気のみたらし団子など、50種類以上の和菓子の製造販売をされる和菓子専門店。これら商品は全て、本社の工場で製造され、11箇所の常設店と有名百貨店で手にすることができます。また同社の商品は、作り置きのできない生菓子がほとんど。年中無休で最高の和菓子を提供し続けるための経営手法や従業員の方々(平均年齢約27歳)の働きぶり、団結力に感銘を受けた。



研修員は、従業員の方の素早く、確実な手つきに、目を奪われていた。

(株)西遊旅行

世界各地へのツアーや個人旅行

東京都千代田区 <http://www.saiyu.co.jp/>

「中東地域観光開発研修」で訪問

アジア、中国、中近東、中南米やアフリカの秘境専門旅行社として、斬新なコースの開発に力を入れている同社の設立は1973年。シルクロード・秘境・トレッキング・登山の各分野で斬新なコースの開発に力を入れ、一味違う旅を提供し続けている。

研修員の所属国・地域を知りぬいている研修講師からは、トイレ・ホテルの整備や、新たな観光資源開発の必要性など、それぞれの観光地開発についてのアドバイスをいただいた。日本の旅行会社との意見交換は貴重な経験で、研修員は各観光地の開発に向け、皆意欲に燃えていた。



日本の旅行会社との意見交換の機会を得たことは、研修参加者にとって非常に貴重な経験だったようだ。

(株)大阪繊維リソースセンター

繊維産地の明日を築くためにサポート

大阪府泉大津市 <http://www.rc-osa.com/>

「中央アジア経済団体強化研修」で訪問

大阪南部は、毛布、毛織物、綿織物、パイル織物、タオル等々と様々な繊維業務が集積している。しかし、日本の繊維産業は、国際化の進展に伴い、国内外市場において世界の商品との競争を免れない。同社は、経営面からデザイン・商品企画、情報化の促進、人材育成など、日本の繊維産業をサポートするために官民共同出資により平成2年に第3セクター方式で設立された。新加工技術、新素材を紹介し、伝統の文化・匠の技に、革新技術を適合させ繊維産業を生活文化提案型へと脱皮させるために行っている具体的な活動を学んだ。



施設内の泉大津市立織編館を見学する研修員と講師の轟俊一取締役事業部長(右から2人目)、館長(右側)。

(株)奥谷金網製作所

目指せ業界世界一の技術力!!

神戸市中央区 <http://www.okutanikanaami.co.jp/>

「中央アジア経済団体強化研修」で訪問

「金網・パンチングメタルのことならお任せください。」とホームページで呼びかけ、Web受注をいち早く取り入れている同社は、兵庫県中小企業家同友会の会員で「アドック神戸」でも先端技術製品の開発活動をしているパンチングメタル製造を得意とする先端企業。

同時に金網の販売や加工業務を120年前に創業し、JR神戸駅前に神戸本社ショールームを構える老舗企業でもある。

奥谷専務取締役から、加入されている各種経済団体の役割と活動内容をお話していただいた。



創業1895年を掲げる本社前で研修員と奥谷専務(後列中央)。



事務局
ニュース

ワンワールド・フェスティバルに出展

PREXは2月6・7日、関西の主要な国際協力NGOやODA実施機関が集う国際協力のお祭り「ワンワールド・フェスティバル」(於：大阪国際交流センター)に参加し、活動紹介パネルなどを展示した。当日は、134の企業や団体がブースを出展したほか、シンポジウムやワークショップ、民族料理の模擬店などのイベントが実施された。

PREXのブースでは職員が自ら担当する研修の紹介や研修員の反応など具体的に紹介し、PREXについての理解向上に努めた。100名を超える国際協力に関心の高い学生や社会人に訪問いただいた。



石原享一先生 「文化摩擦と日本人」を出版

PREXで研修講師・コースリーダーを勤めている神戸大学大学院国際文化学研究科教授の石原享一氏が、「文化摩擦と日本人—平和の作法とは」(白帝社 2010年1月)を出版された。

本書では、武力に頼らないで平和を達成するために、文化の分野から相互理解と国際交



流・国際協力の意義を論じている。

国際政治や社会経済構造の側面から広義の平和構築の可能性を探った前著「知と実践の平和論—国際政治経済学と地域研究」の姉妹編。

3月実施の主な研修と会議予定

受入
研修

メコン地域観光振興

◎期 間：2010.3.3~19

◎対 象 者：メコン地域の観光振興に携る行政官 10名

◎内 容：メコン地域観光振興策検討・日本からの周遊観光促進

◎委託元機関：JICA大阪国際センター

フ
ォ
ロ
ー
ア
ッ
プ
事
業

JICA研修フォローアップ事業(JICA事業) (ウズベキスタン、キルギス、カザフスタン)

◎期 間：2010.3.18~31

◎内 容：日本センターカウンターパート研修及び中央アジア経済団体強化コース参加研修員のフォローアップとニーズ調査(フォローアップセミナーの開催、帰国研修員所属企業訪問による現状と成果の把握、PREX職員2名が参加)

会
議

平成21年度 第2回評議員会

2010.3.29 14:00~15:30

平成21年度 第2回理事会

2010.3.30 10:00~11:30

C O L U M N

帰国研修員 タイで救急大災害医療訓練を実施

国際交流部 担当課長 三浦 佳子

2008年度救急大災害医療にタイから参加したウィワット医師から写真が届いた。タイはインド洋沖の地震によって津波の被害にあったことは記憶に新しい。彼がいるプーケットでは、その津波の追悼5周年として、12月22日から25日に全国から医療関係者をあつめて訓練を行ったとの報告だ。南部の9州から122名が参加し、最終日の25日はプーケット空港での移送訓練も行われた。彼を中心として、訓練は実施された。

日本での研修中に、災害時に駆けつける災害派遣医療チーム(D-MAT)、消防署、警察、自衛隊などが、災害に備えて日々訓練している様子を学んだ。その備えがいざというときの行動を左右する。そのことを目のあたりにしたウィワット医師は帰国後早速動き始める。まず、コースリーダーの大阪府済生会千里病院の甲斐副院長をプーケットに招へいし、セミナーを開催した。そして、写真で報告していただいた訓練。現在では、D-MAT教官を対象にした日本での研修を企画している。

災害がなくなる=研修参加者の活躍の場が少なくなるということが、一番いいのかもしれない。しかし、災害はゼロにはできない。「助けられる命を助ける」ために力を尽くしている研修員達の日々の活動に頭が下がる。



タイの医療関係者を対象に救急時の対応について訓練を行なった。



最終日には、プーケット空港での移送訓練も行なわれた。

PREXの 研修実績

2010年
1月末現在

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通しての国際的人材交流促進に努めています。

●研修累計(1990~)
444コース
●受講者累計(1990~)
124カ国・地域 12,938名
【受入(訪日)研修 4,009名/
海外研修 8,929名】

●出向職員累計
19社から延べ71名
●現在出向職員を派遣いただいている企業(50音順)
大阪ガス、関西電力、サントリーホールディングス、住友電気工業、ダイキン工業、西日本電信電話、パナソニック